

知的障害特別支援学校における情報教育としての

絵本活用の取組の成果と課題

—情報活用能力と自立・共生・社会参加に視点を当てて—

Considerations of results and problems on using picture books as information education
in the supporting school for the mentally disabled

—Focusing on information utilization ability and independence, symbiosis and social participation—

藤澤 憲¹

¹和歌山県立和歌山さくら支援学校

Ken Fujisawa¹

¹Wakayama Sakura Special support school

1148-1 Nishinosho, Wakayama, Wakayama Prefecture, Japan 640-0112

キーワード：絵本の読み聞かせ、情報活用能力の3つの観点、自立・共生・社会参加、
教員によるアンケート調査

Key words : The reading a picture book to children, Three perspectives of information utilization ability,
Independence, symbiosis and social participation, Questionnaire survey by teachers

抄録

知的特別支援学校における絵本活用（絵本の読み聞かせ）の取組の主な様子と教員のアンケート調査結果から絵本の読み聞かせが情報教育の取組として十分成立するのかについて情報活用能力の3つの観点から考察し、さらに和歌山県教育委員会（2011）の『市民性を育てる教育』の「市民性」を構成する3つの要素（自立、共生、社会参加）から成果や課題を考察した。その結果、絵本の読み聞かせでは、必要な情報を主体的に収集・判断・表現・処理・創造し、受け手の状況などを踏まえて発信・伝達できる能力が求められるなど効果的な情報教育の取組となることが示唆された。また、子ども自ら絵本の読み聞かせをしたり、友だちから褒めてもらうことにより自尊感情を高めることができたり、読み手の問いかけに応答したり、質問したりするなど読み手の友だちとのやりとりを深めたりすることにより、自立や共生の要素にも十分寄与することが示唆された。一方で、社会参加の観点から地域に参画する視点が取組の中では弱いことが示唆された。

1. 問題と目的

平成20年1月の中央教育審議会答申では、「社会の変化への対応の観点から教科等を横断して改善すべき事項」の一つとして情報教育が示された。つまり、「効果的・効率的な教育を行うことにより確かな学力を確立するとともに、情報活用能力など社会の変化に対応するための子どもの力を育むため、教育の情報化が重要である」と示された。文部科学省（2008a）は、情報教育の目標としての「情報活用能力」の3つの観点（情報活用の実践

力、情報の科学的な理解、情報社会に参画する態度）をバランスよく育成することを重視している。また、現行学習指導要領（文部科学省、2008a）においても、情報教育を含んで「基礎的・基本的な知識・技能を習得させるとともに、それらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を育成し、主体的に学習に取り組む態度を養うためには、児童生徒がコンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を適切に活用できるようにすることが重要である。また、教

師がこれらの情報手段や視聴覚教材，教育機器などの教材・教具を適切に活用することが重要である（文部科学省，2008b）」とされている。

これまで学校現場において，授業における情報活用能力の育成に関する研究（佐藤・浦郷，2017；山川・浅井，2017）や情報活用能力向上のための図書館活用に向けた研究（古山，2017）などが報告されている。これらの情報教育の研究に共通する知見として，子どもたちが自ら情報を収集したり，情報を取捨選択できたりすることを通して主体的に学びに向かう大切さが述べられている。

伊藤（2016）は，授業において絵本や紙芝居を映像機器で映し出し，教員が話をすることにより，いかに子どもたちに伝わっていくのかを考察している。また，齋藤（2017）は，幼児を対象とした絵本の読み聞かせを通して，相手の話を聞こうとする意欲や態度が生まれ，言葉に対する感覚や言葉で表現する力が養われることを示唆している。これらの研究は，情報活用の観点から直接的に考察は加えられていないが，先に述べた情報活用能力の要素を多く含んだ知見であると考えられる。

本研究の対象校であるA県B特別支援学校（知的障害）は，小・中学部児童生徒数61名からなり，自閉症スペクトラム障害児が全校児童生徒数の7～8割と高い。相手の意図を受け止めることや思いや要求を相手に伝えることが苦手な児童生徒が多く，行動の特徴として多動であったり，視線が合わない，表情の乏しさなどやりとりの構えをつくるのが苦手な場面が見られる。そこで，これらの課題に迫るために全校児童生徒を対象に情報

教育の視点を生かした絵本の読み聞かせの取組（特別活動）を3年間（計69回）実施し，子どものコミュニケーション力を高めることを主なねらいとしてきた。

先に述べた先行研究（伊藤，2016；齋藤，2017；佐藤・浦郷，2017；山川・浅井，2017）は，情報教育としての取組であったり，情報活用の要素を含んだ取組である。しかし，それらのほとんどが校内の取組の成果にとどまっており，これらの成果が校外の地域とどのようにつながっていくのかまで言及した論文はこれまであまり見受けられない。

そこで本研究では，最初に3年間の取組を通して，絵本の読み聞かせの取組の主な様子と教員によるアンケート調査結果から絵本の読み聞かせが情報教育の取組として十分成立するのかどうかについて情報活用能力の3つの観点から考察した。次に，絵本の読み聞かせの取組が地域とどのように結びついていくのかという視点を鑑み，絵本の読み聞かせの取組の主な様子と教員によるアンケート調査結果を基に，和歌山県教育委員会（2011）が推進する『市民性を育てる教育』の「市民性」を構成する3つの要素（自立，共生，社会参加）から成果や課題を考察することを目的とした。

『市民性を育てる教育』とは「児童生徒が自分も他者も大切にし，権利の主体として責任を果たしながら，積極的に社会に参画しようとする意欲や態度を育てる教育」と定義されている。つまり，キャリア教育の視点を含んでいると考えられる。図1は「市民性」を構成する要素を表したものである。

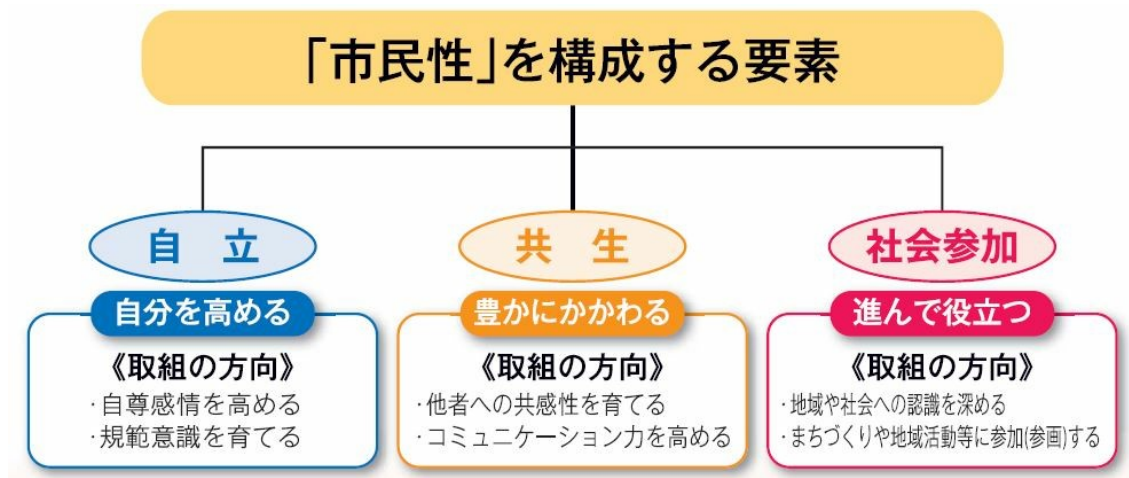


図1. 「市民性」を構成する要素

（出典：和歌山県教育委員会 子どもたちの「市民性」を育てるために（リーフレット）2011 より一部引用）

2. 方法

2.1. 読み聞かせの概要

「おはなしのくに」と称して月2～3回、給食後の約20分間に特別活動として実施した。B特別支援学校の教員や児童生徒をはじめ、地域の高校生や保育士、福祉施設職員、書店職員などが絵本の読み手になった。また、児童生徒の発達段階を考慮し、主に3歳～9歳向けの絵本の精選や情報モラル（例：図書室の利用方法）も取り入れることを心掛けた。毎回、読み手が児童生徒の前で大型絵本や大型テレビ等を活用した絵本の読み聞かせを披露し、児童生徒が落ち着いて絵本を見聴き

したり、絵本の内容や読み手の意図などを受け止めたり、自分の思いを伝えたりする力を高めることを主なねらいとした。また、読み聞かせ後に聴き手が質問や感想を述べるような機会を設定した。

2.2. 教員によるアンケート調査

3年間在籍したB特別支援学校教員30人を対象に、情報教育の視点を交えた絵本活用についての6つの質問項目（2つの観点のマーク式及び自由記述式）によるアンケート調査を実施した。アンケート質問紙を図2に示す。

「おはなしのくに」（絵本の読み聞かせ）教職員アンケート調査

「おはなしのくに」をさらに充実した取組にするために、みなさんからご意見をいただきたいと思っております。下記のアンケート項目にそって、「そう思う」「思わない」のどちらかに○をつけてください。

アンケート項目		そう思う	思わない
①	「おはなしのくに」では、絵本以外のツールや内容（例：ICT活用、電話、ポスター、手紙等）を取り入れる方が良いと思いませんか。		
②	「おはなしのくに」では、もっと児童生徒の読み聞かせ等の発表の機会があった方が良いと思いませんか。		
③	「おはなしのくに」では、かつて係が図書室やパソコン利用を紙芝居にして取り上げましたが、今後も情報モラルの内容を取り入れた方が良いと思いませんか。		
④	「おはなしのくに」は、情報教育の視点をもって活動できるツールや内容だと思いますか。		
⑤	児童生徒の実態はそれぞれ違いますが、児童生徒の多くは、絵本や読み手をよく見て活動していると思いませんか。		
⑥	参加する児童生徒たちは、座って聴く態度がほぼできていると思いませんか。		

「おはなしのくに」の活動に対して、ご意見・ご感想があればお書きください。

図2. アンケート質問紙

2.3. 主な分析の視点

最初に、教員によるアンケート調査結果を基に絵本を活用した取組を情報活用能力の3つの観点（情報活用の実践力、情報の科学的な理解、情報社会に参画する態度）から考察した。次に、絵本の読み聞かせの取組の主な様子と教員によるアンケート調査を基に、「市民性」を構成する3つの要素（自立、共生、社会参加）から成果や課題を考察した。

3. 結果

3.1. 絵本の読み聞かせの取組の主な様子

取組の中で毎年表れた児童生徒の傾向として、4月～7月頃には、取組に集中できずに途中で離席する児童生徒が多くいたが、9月以降には、ほぼ全ての児童生徒が徐々に絵本や読み手に注目して聴く態度を身につけることができた。12月～3月には、読み手の問いかけに応答したり、質問したりする児童生徒が増え、自ら「絵本を読みたい」という児童生徒が多くいた。エピソードとして、ひらがなを覚えてばかりの児童が主体的に大型絵本の読み聞かせに挑戦したり、仲間同士で自作の紙芝居を披露したりする生徒がいた。

3.2. 教員によるアンケート調査結果

図3によると、「絵本の活用は、情報教育の視点をもって活動できるツールである」と回答した教員は全体の83%を占め、その理由として児童生徒が絵本から知識を得たり、絵本を通して体験を共有できる等の意見があげられた。また、「座って聴く態度が身につけている」の回答率は97%、「絵本や読み手を見ている」の回答率は93%、「もっと子どもの読み聞かせ等の発表があった方がよい」の回答率は72%と高かった。「絵本以外のICT活用、電話、ポスター、手紙等のツールを積極的に取り入れる方がよい」の回答率は52%であった。

自由記述では、情報活用の実践力から児童生徒の成果についての記述が多かった。複数意見として、「①多動であったが、離席することなく、情緒を安定させて聴く態度が身についた」「②読み聞かせ後の授業に落ち着いて取り組めるようになった」「③絵本を追視できるようになると、他の授業でも視線が合うようになり、その後のやりとりが深まった」「④読み聞かせ後の聴き手の発表場面では、自信をもって質問をしたり、感想を述べたりすることができた」「⑤仲間の読み聞かせの発表を聴いて、読みたいという児童生徒が

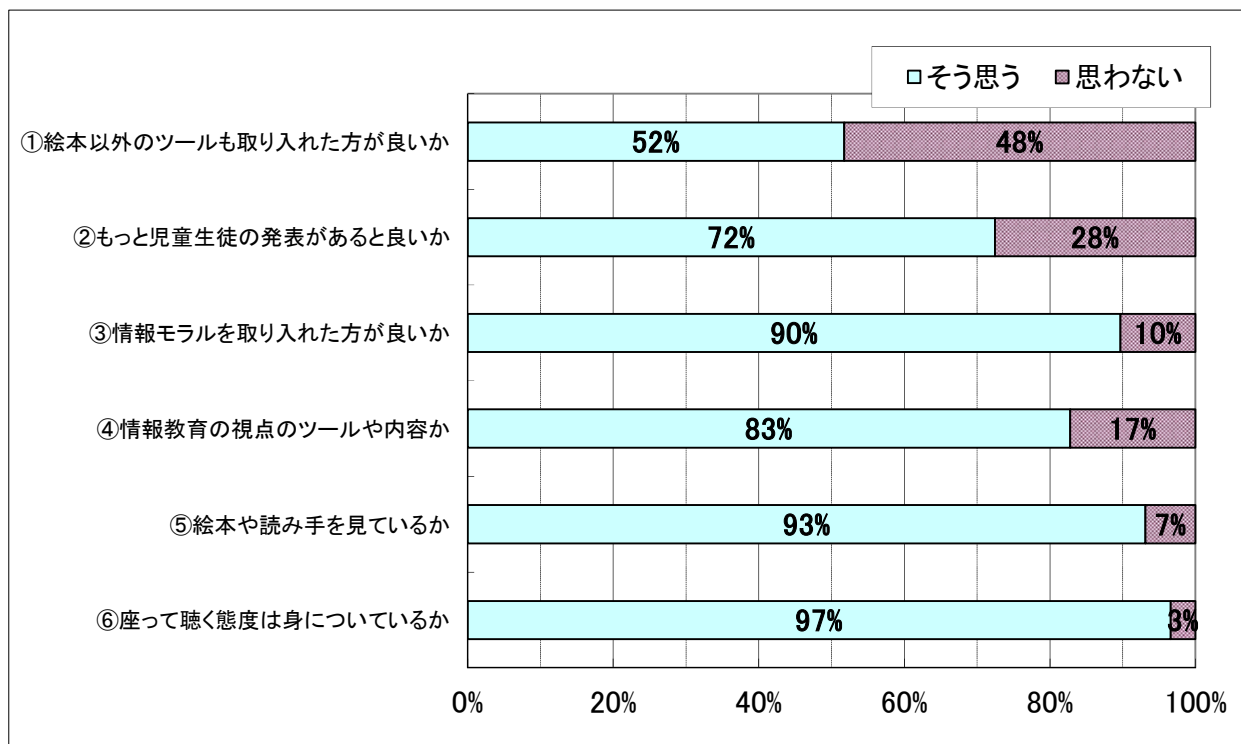


図3. 教員によるアンケート調査結果

多くいた」などがあげられた。

考察

最初に3年間の取組を通して、絵本の読み聞かせの取組の主な様子と教員によるアンケート調査結果から絵本の読み聞かせが情報教育の取組として十分成立するののかについて情報活用能力の3つの観点から考察していく。

情報活用の実践力では、必要な情報を主体的に収集・判断・表現・処理・創造し、受け手の状況などを踏まえて発信・伝達できる能力が求められる。アンケート結果より、「児童生徒の多くは座って聴く態度や絵本や読み手に注目できている」の回答が93%とほとんどであり、自由記述でも質問をしたり、感想を述べたりする機会があり、情報活用の実践力が取組の主なねらいの基盤であったと考えられる。

情報の科学的な理解では、情報を適切に扱ったり、自らの情報活用を評価・改善するための基礎的な理論や方法の理解などが求められる。「絵本の活用は情報教育としてのツールである」との回答率は83%と高かったが、絵本以外のツールを積極的に取り入れることに関しては、「そう思う(52%)」と「思わない(48%)」のほぼ半分に意見がわかれた。これは、教員が絵本以外にも情報教育として考えられるツールが多くあることを理解しているが、全校児童生徒一斉の取組として発達段階に幅が生じるため、どの児童生徒にも馴染みや 쉬운絵本活用を中心に据える方が良いという意見もあったからではないかと推測される。

情報社会に参画する態度では、情報モラルの必要性や情報に対する責任について考え、望ましい情報社会の創造に参画しようとする態度が求められる。「図書室やパソコンの利用方法など情報モラルの内容を絵本活用として取り入れた方が良い」の回答率は90%と高く、情報社会に参画する態度とも深く関与していたと考えられる。

以上情報活用能力の3つの観点から見た成果と今回のアンケート調査を通して、それぞれの質問項目では比較的肯定的な意見が多く、絵本の活用(絵本の読み聞かせ)は、十分効果的な情報教育の取組となることが示唆されたと考えられる。

次に、絵本の読み聞かせの取組の主な様子と教員によるアンケート調査結果を基に、図1による「市民性」を構成する3つの要素(自立、共生、

社会参加)から考察し、成果や課題を考察した。

「市民性」を構成する「自立」の要素には「自尊感情を高める」「規範意識を育てる」がある。例えば子ども自ら絵本の読み聞かせをしたり、友だちから褒めてもらうことにより自尊感情を高めることができる。また、情報モラルを取り入れた方が良いと考える教員が90%と多く、規範意識を育むツールにもなると考えられる。「共生」の要素には「他者への共感性を育てる」「コミュニケーション力を高める」がある。読み手の問いかけに応答したり、質問したり、読み手の友だちとのやりとりを深めたりすることにより、これらの要素にも十分に寄与していたと思われる。以上の知見より、「自立」と「共生」の要素に関しては、取組の成果が期待できると考えられる。一方で、「社会参加」の要素には「地域や社会参加への認識を深める」「まちづくりや地域活動等に参加(参画)する」がある。地域の方々に読み手になっていただくことにより、地域や社会参加への認識を深めることはできるが、地域に参画する視点が取組の中では弱いことが示唆された。例えば、今後、児童生徒が地域の学校や施設を訪問したり、TV会議遠隔システム等を活用しながら絵本の読み聞かせを披露して、地域の方々と交流を深めたりすることなどが課題として考えられる。

今後、発達段階の高い児童生徒の実態も踏まえ、絵本活用に関する活動内容の精選が必要である。また、情報の科学的な理解の観点から絵本活用のツールに限らず、様々な方法・手段・援助を吟味・検討し、幅広い視点から分析・考察していきたいと考えている。

引用・参考文献

- [1]浜崎隆司・黒田みゆき. 絵本の読み聞かせがその後の人生に及ぼす影響 ―テキストマイニング法を用いて―. 鳴門教育大学研究紀要,2017,32, p.86-91.
- [2]井口あずさ. 国語科の教員養成における教室内での非言語コミュニケーションスキルの育成 ―絵本の読み聞かせの活用―. 比治山大学・比治山大学短期大学部教職課程研究,2017,3, p.15-29.
- [3]伊藤昭博. 視聴覚教材及び情報機器を活用した授業の方法についての考察. 別府大学短期大学部紀要,2016,35, p.111-120.
- [4]文部科学省. 小学校学習指導要領, 2008a.

- [5]文部科学省. 小学校学習指導要領解説総則編, 2008b.
- [6]野口佳子. 「生きる力」をはぐくむ知的障害児の発達課題の在り方について. 大阪総合保育大学紀要,2015,9, p.211-224.
- [7]齋藤善郎. 保育を広げるー絵本の読み聞かせ実践を通してー. 椋山女学園大学教育学部紀要,2017,10, p.313-321.
- [8]佐藤 真・浦郷 淳. 総合的な学習の時間における情報活用能力の育成に関する研究ーグループ・モデレーションによる評価研修を手がかりにー. 関西学院大学教育学会教育学論研,2017,9-2, p.107-117.
- [9]和歌山県教育委員会. 子どもたちの「市民性」を育てるために(リーフレット),2011.
- [10]山川 拓・浅井和行. 小学校学習指導要領(2020)の理念を踏まえた情報活用能力育成を目指した授業開発. 教育メディア研究,2017,24(1), p.71-8

(受付:2018年6月10日, 受理日:2018年6月20日)

藤澤 憲(ふじさわ けん)

現職:和歌山県立和歌山さくら支援学校教諭

鳴門教育大学大学院学校教育研究科障害児教育専攻修了.

専門は特別支援教育. 教育心理学. 現在は, 障害のある子どもへのキャリア発達支援, スノーブレンを活用した支援について研究を行っている.